

音源の位相チェック実験(33)

—CD における確認(12)—

1. はじめに

前報(32)に引き続き、CD における位相チェックの検討を行います。今回は、自宅のシステムではなく、販売店のシステムを借りてのチェックです。

2. 音源の位相チェックの試聴方法

アキュフェーズのプリアンプやプリメインアンプには位相反転の機能があり、シマムセンの試聴機を借りて実施します。

試聴システムは下記のとおりです。

プレイヤー アキュフェーズ P-750
プリアンプ アキュフェーズ C-2900
メインアンプ アキュフェーズ A-75
スピーカー Martin Rogan Classic ESL 9

P-750 から C-2900 にはバランス接続、C-2900 から A-75 にはセレクターを介している関係からアンバランス接続です。

使用した CD は下記のものであります。

ARCHIV POCA-2009/10

J.S.Bach ミサ曲口短調

カール・リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団

ARCHIV POCA-1139/40

ヘンデル メサイア

ポール・マクリーシュ指揮ガブリエルコンソート&プレイヤーズ

A&M Record UICY-1311/12

カーペンターズ

VERVE CCCV-11150

ダイアナ・クラール

試聴は、C2-900 のサブパネルの⑦位相切替ボタン（位相反転スイッチ）を切り替えながら行います。

C-2900 の仕様は下記に記載されています。

<https://www.accuphase.co.jp/model/c-2900.html>

<https://www.accuphase.co.jp/cat/c-2900.pdf>





⑦入力信号の位相を反転する『位相切替ボタン』

3. 音源の位相チェックの試聴結果

位相切替ボタンによる位相の反転の結果、自宅とは逆の印象になりました。販売店によれば、アキュフェーズ製品は2番ホットではなく、旧来の条件を踏襲している結果、3番ホットであり、アキュフェーズ製品のみでのシステム構成にはなんら問題はないが、他社製品との組み合わせには注意が必要であるとのこと。

なお、今回試聴した Martin Rogan の Classic ESL 9 は、ステレオイメージも明快で、繊細で細かい表現に特徴があるようで、先般のアキュフェーズ新製品の試聴会で聴いた B&W804D に比べ、好印象でした。

[シマムセンオーディオ試聴会 \(2021.11.28\)](#)

4. まとめ

C2900 の位相切替ボタンは、アキュフェーズ以外の機器との接続には位相を合わせるための機能であり、アキュフェーズ製品は2番ホットではなく3番ホットですので、位相切替ボタンの使い方には注意が必要であることが分かりました。

以上